

ジャパン・ソサエティでの4日連続弁士公演について、
長澤綾氏(ジャパン・ソサエティ 映画部・事業担当)の記事が活狂(かつきち)春号に掲載されました。

・無声映画鑑賞会会報・

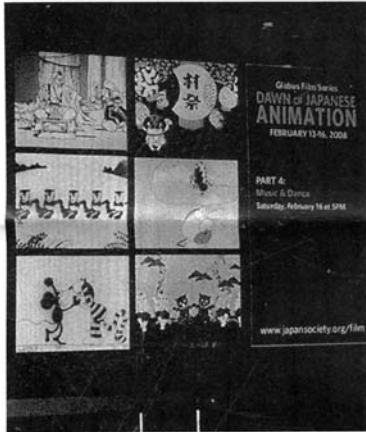


132 通巻第164号
1月4月7月10月 年四回発行



季刊 春

2008年4月1日発行
発行所/〒120-0003 東京都足立区東和3丁目18番4号
マツダ映画ビル内 無声映画鑑賞会
編集兼発行人 松田 豊 ©
事務局 電話・03(3605)9981(代)
FAX・03(3605)9982
無声映画鑑賞会 郵便振替 №.00140-2-152103



DAWN OF JAPANESE ANIMATION
澤登翠さん英語字幕付き
ニユーヨーク公演
ジャパン・ソサエティー 長澤綾

昨年の夏、デジタル・ミームのラリー・グリーンバーグさんとニユーヨークでお会いする機会に恵まれ、そのときに初めて二〇年代から五〇年代までの短編アニメーション映画を見せていただきました。『鉄腕アトム』などテレビ以降のいわゆる「アニメ」しか見慣れていない私にとって、それよりずっと以前に製作されたアニメーション映画は古いというよりもむしろ新しい魅力にあふれていました。日本の昔話を題材にした素朴な作品から、明らかにデズニードアメリカのアニメーションの影響を受けたキャラクターデザイン、また人気漫画をプロバガンダ目的でアニメーション化した作品など、あまりの面白さに「これはニユーヨークの観客にどうしても見てほしい!」と大興奮しました。

幸いなことにグリーンバーグさんとマツダ映画社の松田豊さんからジャパン・ソサエティーで上映会を開催することを快諾いただき、さらには私のあこがれである弁士、澤登翠さんをお招きできることになり、DAWN OF JAPANESE ANIMATION(日本アニメーション映画の夜明け)と題した上映会を今年二月の四日間に渡り開催すべく準備を始めたのです。

ニユーヨークでは毎日数多くの映画上映会が開催されているため、劇場を入れて埋めるためには練りに練った企画と宣伝が必要となります。さらに今回のアニメーション映画は既存のジャンルと違い観客にとっては全く未知の作品群なので、企画の切り口だけで好奇心を煽るくらいでなくてはなりません。そこで前面に打ち出したキャッチフレーズは「いまや世界を席巻するジャパニーズ・アニメの源流、米国初公開」。

また、アニメファンだけでなく幅広い観客にアピールするために作品を四つのテーマに分けて、「第一部IIチャンバラと冒険活劇」、「第二部IIホラーとコメディ」、「第三部IIプロバガンダ」、「第四部IIダンスと音楽」とし、なるべく観客にとって分かりやすい企画となるように心がけました。さらに活動弁士の第一人者である澤登翠さんが公演されるといのは大きな見所ですので、観客に100%活弁を楽しんでもらうために、弁士の語りにはすべてライブ操作の英語字幕をつけることにしました。



いよいよ公演の二日前、澤登さんがニユーヨーク入りされて英語字幕のリハーサルを行いました。字幕は、事前に台本をもとに打ち込んであるものを澤登さんの語りにあわせてスクリーンにデジタル投射するので、タイミングは自在に操作できるのですが、残念ながら本番で台詞そのものを変更することはできません。アドリブは弁士の語りの魅力であるのに、それをしないようにお願いするのはとても心苦しいことでした。澤登さんのリハーサルをビデオ撮影したテープに合わせてさらに字幕操作の担当者が練習を重ね、英語字幕がなくても意味が通じる部分は極力字幕を省くように修正し、観客が字幕を読む量を減らして澤登さんの声をより楽しめるようにしました。

公演初日、ニユーヨーク・タイムズ紙やビルジ・ボイス誌などに大きく取り上げられたことも後押しし、チケットは完売、二六二席の劇場が満席になりました。好奇心旺盛なニユーヨークの観客は初めて見る戦前の日本アニメーションに終止釘付けで、澤登さんの語りにもとても機敏に反応して笑いの絶えない公演となりました。さらに二日目、三日目も売り切れ、四日目もほぼ満席という私たちの当初の予想をはるかに上回る人気ぶりで、足を運んでくださった観客は澤登さんの語りの魅力とアニメーションの面白さに大満足で帰ってゆきました。

昨年の夏に私が初めてこれらのアニメーションを見た時の新鮮さを、澤登さんをお迎えすることでさらに鮮度をあげてニユーヨークの観客に味わってもらうことが出来たのだと思います。澤登さん、松田さん、グリーンバーグさん、ニユーヨークの観客のために多大なるご協力を戴き、本当にありがとうございます! (ジャパン・ソサエティ 映画部・事業担当)

媒体データ 媒体名:活狂(かつきち) 掲載号:2008年春号 発行:無声映画鑑賞会

クラシックフィルム上映会、DVD情報はこちらから
www.digital-meme.com



©株式会社デジタル・ミーム